



咲き誇る

伊豆の国市大仁中学校
学校だより 3月号
令和2年3月19日発行

学校教育目標 『夢を拓く』～学ぶ喜びを分かち合う生徒～

大中坂の桜の花も5分咲きになり、春本番を迎えようとしています。学校では、19日に、午前修了式、午後卒業式を挙行了しました。卒業式で読んだ式辞を紹介します。

令和元年度 卒業式 式辞

あらためて卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この卒業証書は、単に中学校の三年間を卒業したというだけでなく、皆さんが小学校からの通算9年間に渡る義務教育の課程が修了したことを示しています。

皆さんと過ごした二年間は、私にとって本当に幸せな日々でした。特に3年生になったこの一年間は、大きな飛躍の一年ではではなかったかと思えます。

4月の歓迎会での素晴らしい合唱、5月の修学旅行では、時間を守るのは当たり前、お世話くださった方々へのお礼や説明を聞く態度、どれをとっても自慢できるものでした。夕食後の誕生月の友達をお祝いする大きな拍手は、忘れられません。また、「STAR～光る汗と輝く歌声～」をスローガンとしてリーダーシップを発揮した「かしわ祭」。特に縦ムカデの「One Heart」では、ゴールしたときのやりきった顔、最後の学級に対して、全員で拍手を送っている姿は素晴らしかったです。合唱コンクールでは、金賞のクラスの喜びの姿以上に、金賞を逃したクラスの落ち込みようが印象的でした。それ程、行事に打ち込めるみんなはすごいと思えました。全ての面で、学校の顔として輝いていました。

皆さんは、こうした成長と輝かしい日々の中で義務教育を終えたわけですが、人生においては、新たなスタートです。中学3年間は、行き先の示されたレールに乗って、目標に進んできました。むしろ、自ら学んでいくという意味での本当の「学び」は、これからがスタートだと思います。

さて、「新型コロナウイルス」の影響で、臨時休業を余儀なくされ、本日はあるわけですが、世の中には、こんな卒業式を迎えなければならなかった宮城県気仙沼市立階上中学校を紹介します。この中学校の卒業式は、震災翌日の平成23年3月12日に予定されていましたが、3月22日に10日遅れで行われました。卒業生57人の内、1人死亡、2人行方不明という悲しい状況の中での卒業式でした。卒業式の模様はテレビで放映されましたが、あふれそうになる涙を懸命にこらえながら、未来へ向かう決意を誓う男子生徒の姿に多くの人々は涙しました。今でもYouTube（“東日本大震災 答辞”で検索）で見ることができます。その答辞の一部を紹介します。

『自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切な物を容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というにはおご過ぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。時計の針は14時46分を指したままで。でも時は確実に流れています。生かされた者として顔を上げ常に思いやりの心を持ち、強く正しくたくましく生きて行かなければなりません。命の重さを知るには大き過ぎる代償でした。』

しかし、どんな苦境にあっても天を恨まず運命に耐え助け合って生きていくことがこれからの私たちの使命です。私たちは今それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても何をしようともこの地で仲間と共有した時を忘れず宝物として生きていきます。以下略』

大切なものを容赦なく奪われたその悔しさや悲しさは計り知れないものがあると思います。しかし、それでもなお彼は「天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく」というのです。

国難と言われている「新型コロナウイルス」が猛威を振るっています。4月からの生活も例年通りにいかないかもしれません。しかし、この中学生のように、「いかなる苦難に遭おうとも、決して恐れず、ひるまず、他のせいにならず、そのすべてを受け入れ、そうして自らに課せられた使命（助け合って生きていくこと）を大仁中学校卒業生として果たしていく」ことを期待しています。

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。長い9年間の義務教育が終わります。成長した我が子の姿に、改めて感無量ではないでしょうか。4月からは高校生として、スタートします。そして、親から少しずつ手が離れていきます。それでも目と心を離さないようにお願いします。そして、子どもの生活の基盤は家庭にあり、子どもの成長にとって一番影響を持つのは、親の生きる姿勢であり、家庭の支えであることを忘れないで下さい。私の子育て、教育の座右の銘「育てたように 子は育つ」という言葉を皆様に贈りたいと思います。

終わりにあたり、令和初、東京オリンピック・パラリンピック開催という記念すべき年に、巣立ちゆく142名の皆さんの未来が校訓のように「咲き誇る」人生になることを心からお祈りし、卒業のはなむけの言葉と致します。

2年間学校便り「咲き誇る」をお読みいただきありがとうございました。私、矢田真則は、3月をもって、定年退職となります。保護者の皆様、地域の皆様、今後とも大仁中学校の教育活動に対し、ご理解とご協力よろしく申し上げます。

文責 校長 矢田真則



答 辞

新型コロナウイルスという世界中をおびやかしているものが騒がれている中、私たち百四十二名は卒業式を行うことができます。式が開催できることにとても感謝しています。

僕はこの大仁中学校に入学したとき、わからないことだらけでした。大きな校舎、五十分という授業時間、英語という教科、新しい友達、このような環境は毎日ときどきしながらも、楽しく新鮮な空間でした。

二年生の時は、先生が引っ張って盛り上げてくれたことで、楽しい一年間になりました。クラス替えて仲間が変わり、元気がなかった僕たちを楽しませてくれた先生はすごいと思いました。

三年生になって、修学旅行はとにかく楽しかったです。好みや得意なこと、苦手なことなど、友達の意外な一面を知ることができました。修学旅行で一番楽しかったのは、クラス全員で盛り上がった、バスの時間でした。五月に行われた修学旅行で、一気にクラスがまとまり、これ以来、毎日がとても楽しくなりました。一年生、二年生と普通に楽しかったのですが、三年生では学校が楽しすぎて、行きたくて仕方ありませんでした。それは何でも笑いあえる友達ができ、クラスみんな仲が良く、自分たちから動いて試行錯誤しながら良い方向に進んでいく実感があったからだと思います。

三年生のクラスはやはり特別でした。自分たちの力で何かを作り上げるおもしろさを生み出す仲間の存在を強く感じたのがかしわ祭でした。かしわ祭の期間は毎日が地道な練習の積み重ねでした。疲れてやる気がなくなっている人や、自分のことで精一杯な人、あまり真面目に取り組まない人などが多くいたけれど、僕がめずらしく本気で怒ったり、みんなで励まし合い、助け合いながら、諦めずに頑張ったりして練習を続けました。中学校生活最後のかしわ祭。自分たちからやらなければならないと思いました。体育の部では学年種目の「縦ムカデ」に一番力を入れました。クラス全員で話し合い、自分たちらしいかけ声を決めたり、みんなで輪になって息を合わせ、声を合わせたりしました。それでもうまくいかない時がありました。僕のクラスは準備は遅かったけれど、練習には真剣に取り組んでいました。クラスで一つになるために、転んでも、膝を擦りむいても、それぞれの人が全力を尽くしていました。大変だったけれど、練習していくたびに、足がそろってきました。やればできる。クラス全員が全力で練習に取り組んでいることが伝わってきて、絶対に勝とうと、僕は心に誓いました。このかしわ祭は過去二年に比べて、他のクラスも気持ちの入れ方が違いました。縦割り種目では、同じ色の一年生、二年生が頑張ってくれて、練習では少しうまくいかなかったところも上手にでき、種目優勝を重ねていきました。他の人の競技中も全力で応援し、全員で勝ち取った最高の総合優勝でした。疲れて大変だったり、諦める人がいたりしたけれど、いつもどこかに笑いがあり、とても楽しく充実した日々でした。

合唱コンクールでは体育の部の勢いそのままに、全力で練習し金賞を目指しました。最初は金賞を取れるかとても心配だったけれど、練習していくたびに上手になり希望が持てました。絶対に金賞を取りたいという思いから自分で考え、合唱の動画をLINEでみんなに送りました。その結果、みんなの心に火がつかしました。それからというもの、休みの日にみんなで集まって練習したり、良くなるためにはどうしたらいいのかと話し合ったり、お互いの良いところを褒め合ったり、それぞれができることをすべて実行していきました。だんだん自分たちに自信が付き、日を追うごとに熱心さが増しました。特に最初はほとんど声が聞こえなかった女声パートが、聞こえるようになり、本番前には男声パートと合わせて、まとまりのあるすばらしい完璧な合唱ができあがりました。これまでいろいろなことをやってきました良かったなと思いました。担任の高木先生が一つ一つ手作りにしてくれたお守りを胸に、本番に臨みました。これなら金賞を取れるとクラスの誰もが思いました。しかし本番ではあせりが出てしまい、百パーセントの力が出せませんでした。金賞は取れず、とても悔しかったです。終わってから、教室に戻り、みんなで泣いて、みんなをたたえて、涙の合唱をしました。このような日々が仲間と作った最高の思い出です。このかしわ祭を経て、みんなでひとつになって活動し、協力し合いながら良い方向に進んでいく楽しさ、面白さを学ぶことができました。

部活動では各部活動がそれぞれの大会に向けて全力で練習しました。僕はサッカーのクラブチームに所属し、年間を通してリーグ戦を戦いました。そこでは怪我や調子の良し悪しによる激しいレギュラー争いがあり、二年の最初は出場することができませんでした。やっと巡ってきた出場のチャンスには、必死でプレーしました。チームの中の誰よりもフィールドを駆け回り、誰よりも声を出しました。僕はセンターバックとして失点を減らそうと、常に全力で頑張りました。学校の部活動では県大会に出場した人もいて、みんなが諦めずに最後までやり抜き、身も心も熱く燃えました。

個人としては、三年間で様々なことを経験しました。特に生徒会長を務めさせていただいたことはすばらしい経験でした。大仁中学校の先輩たちがやってきたこと、先手あいさつ、六本柱という伝統は何かということを改めて知ることができました。また、先生方と関わることで多くなり、距離が縮まり、色々な会話ができて楽しかったです。

新型コロナウイルスの影響で、入試が終わってからの期間が休校となってしまいました。これまで築きあげた仲の良さで、最高の思い出を作る時間のはずでしたが、できなくなってしまいました。嫌だったけれども、これもまた忘れることのできない思い出となりました。

コロナウィルスの影響でこの場にはいませんが、在校生の皆さんへ。これまでかしわ祭や部活など自分たちについてきてくれて、ありがとうございます。これからは今までの伝統に縛られず、自分たちで新しい伝統を作り、良い大仁中学校にしていってください。よろしくお願いします。

お父さん、お母さんへ。部活動やクラブチーム、習い事への送り迎えや、栄養たっぷりの食事作りなど、苦勞をかけてすみませんでした。私たちの知らない陰での支えがたくさんあったと思います。時には厳しく叱ってくれたり、時には笑わせてくれたり、将来役立つことを話してくれたりしてありがとう。私たちがこのように立派に成長できたのも、お父さんお母さんのお陰です。これから新しい生活になり、また迷惑をかけることがあるかもしれません。しかし、その時は温かく見守っててください。自分の足で歩いて行きます。これからもよろしくお願いします。

先生方へ。すばらしい先生方のおかげで、僕たちはこのように成長することができました。勉強面はもちろん、人間として成長させてくれました。また、友達のように親しく接してくれて、学習の相談や世間話などの会話ができてとても楽しかったです。今まで僕たちに関わってくれた先生方、ありがとうございました。

そして、最後に仲間へ。今までありがとう。小さい時から一緒の人も、中学で初めて会った人もみんな大切な仲間です。この仲間だからこそ、楽しい思い出を作ることができました。一人ではできないことも、仲間がいるから楽しくやることができました。これからは別々の道に進むけれど、またみんなで集まって楽しみましょう。泣いたり笑ったりできる仲間と出会えたことは一生の宝物です。

僕はまだ卒業するという実感がありません。しかし、いつまでもこのようにしているわけにはいきません。ポーッとしていると時間は勝手に過ぎていきます。少しずつでもいいので、前に進まなければなりません。「一日一日何かを学び成長する。」これはクラブチームの監督に教えてもらった言葉です。この言葉を大切にして、僕はこれから限りある時間、毎日を大切に全力で過ごしていきたいと思っています。このような時期に私たちの卒業式を開いていただき、ありがとうございます。みなさまの健康を祈って答辞とさせていただきます。

令和二年三月十九日 卒業生代表 神田

